



特集 終末期ケアに求められる褥瘡ケア・ストーマケアの知識とスキル

ストーマケア②

終末期ストーマ保有者の体型の変化に合わせたストーマ管理 -るいそうや腹部膨満のあるストーマ保有者のストーマ装具選択のポイント-

山田陽子
産業医科大学病院 看護部 看護主任, 皮膚・排泄ケア認定看護師

- Point**
- ▶ 終末期に生じやすい体型の変化と、その変化がストーマやストーマ周囲皮膚にもたらす影響を理解する
 - ▶ 最期に近づくとつれて生じるストーマやストーマ周囲皮膚の変化を予測し、変化に応じた装具やケア方法を選択することが重要である
 - ▶ 終末期における装具購入の注意点を理解し、ストーマ保有者や家族に対する装具購入の支援を行う

はじめに

がん終末期のストーマ保有者は、がんの進行がもたらすさまざまな身体症状の出現により、ストーマ管理において、装具の変更、ケア方法の変更、ケアを行う人の変更、など多かれ少なかれな

んらかの変更を余儀なくされます。

本稿では、るいそう、腹部膨満などがん終末期に生じやすい体型の変化の特徴を述べ、体型の変化によるストーマ管理のポイントについて説明します。

がん終末期に生じやすい体型の変化

るいそう

るいそうとは、脂肪組織が病的に減少した症候で、標準体型では触診でしか確認できない肋骨弓や上前腸骨棘などの骨の形状や位置を、視診で容易に把握できる状況になります。身体の側面から観察すると、肋骨弓から上前腸骨棘にかけて大きく陥凹し、腹壁の形状は船底型になります(図1)。

るいそうに至る原因として、栄養摂取量の不足や消化吸収障害、内分泌・代謝障害、エネルギー消費などがあり¹⁾、その結果、程度にはありますが体重減少がみられます。がん患者では、悪液質を含むがんの病態によるものや、手術・化学療法・放射線療法などががん治療の副作用などによって体重減少を生じることがあり、がん患者の体重減少は30～80%の確率でみられるといわれています²⁾。よってがん患者のるいそうは、がん終末期に限らずさまざまな時期に生じることがあります。



図2 腹水による腹部膨満のある事例
腹壁の形状は凸状になっている

腹部膨満

がん終末期に生じる腹部膨満は、悪液質による腹水貯留や、腫瘍そのものの増大、それによる腸閉塞、などがあります。身体の側面から観察すると、るいそうとは逆に肋骨弓から上前腸骨棘にかけて腹壁の形状は凸状に膨らみ、多くの場合に腹壁の硬さは硬くなります(図2)。また腹部膨満



図1 るいそうのある事例
腹壁は陥凹し肋骨弓の形状が明瞭